

第18回群馬県河川整備計画審査会

開催日時：平成26年3月20日（木）

13:00～16:30

開催場所：群馬県庁22階222会議室、現場

出席委員：青井透、卯木達朗、内山充、斎藤晋、清水義彦、林不二雄、峰村宏、
宮田裕紀枝、吉澤和具（出席9名） 敬称略 ※内山委員は途中退席

欠席委員：岡本雅美、熊倉浩靖（欠席2名） 敬称略

事務局：荒井課長、八木次長、諏訪補佐、飯島補佐、平形補佐、野口主幹、一倉主幹、
小暮副主幹、島田副主幹

傍聴者：3名

議題：河川の整備状況の説明、近年の河川を取り巻く状況の説明

配布資料：資料1 群馬県河川整備計画審査会委員名簿

資料2 群馬県河川整備計画審査会の位置付け

資料3 水管理・国土保全局河川計画課河川計画調整室長事務連絡(H25.2.25)

資料4 設置要領・運営要領

資料5 審査会の開催状況

資料6 河川整備計画の策定状況

資料7 河川整備計画河川の進捗状況

資料8 河川の整備状況

資料9 平成23年洪水記録

資料10 平成24年井野川出水概要

資料11 平成25年洪水記録

1. 開会

2. あいさつ（河川課長）

3. 審査会委員及び事務局紹介

事務局より審査会各委員を資料1により紹介。事務局が自己紹介。

4. 審査会の設置要領及び運営要領の説明

事務局より審査会の位置付けを資料2及び資料3により説明。

また、審査会設置要領及び運営要領を資料4により説明。

5. これまでの経緯の説明

事務局よりこれまでの審査会の開催経緯を資料5により説明。

また、整備計画策定経緯を資料6により説明。

6. 議題

① 河川の整備状況の説明

事務局より、河川の整備状況について、資料7及び資料8により説明。

② 近年の河川を取り巻く状況の説明

事務局より、近年の河川を取り巻く状況について、資料9、資料10及び資料11により説明。

以下、審議内容

▶ 会長（清水委員）

事務局からの説明に対して、各委員からのご意見をいただきたい。

▶ 青井委員

近年の気候変動の影響に対する河川整備の考え方を伺いたい。

▶ 事務局

気候変動の幅は大きくなっていると考えられるが、河川の流下能力などをすぐに大きくすることは難しい。

河川改修を行った後に溢れるような河川について、更なる対策の検討をしている事例もある。

▶ 会長（清水委員）

群馬県に限らず全国的に非常に大きな課題である。

Xrain や洪水予報など、ソフト面からの支援も図られている。

▶ 林委員

井野川の烏川合流付近の護岸が崩れているので確認してほしい。

▶ 事務局

確認したい。

▶ 林委員

県管理区間の河川で、国土交通省が落差工などを整備している事例があるが。

▶ 事務局

国土交通省が砂防事業で設置しているものである。

県管理区間の河川でも砂防法で位置付けて砂防事業を行うことがある。

▶ 林委員

県管理区間の河川で行う国土交通省の砂防事業についても、連絡を取り合って魚道整備が適正かどうか検討すべきと考える。

➤ 林委員

国土交通省は堤防へのイノシシ対策を行っているが、県も早急に調べて対応すべき。

➤ 事務局

イノシシを含めて鳥獣害に対する被害の調査し、伐木や除草なども含めて堤防の対応を始めたところである。

➤ 林委員

河川水辺の国勢調査をすべきと考える。

とりあえず、データが欠落している利根川上流区間だけでも実施して欲しい。

➤ 事務局

河川整備計画策定に際し環境把握を目的に調査を実施していたが、策定がひと段落ついたため調査を行っていなかった。

改修工事が進んできたため、現状の調査の必要性を感じており、準備を進めていきたい。

➤ 会長（清水委員）

河川水辺の国勢調査は費用もかかるため、県内の詳しい人の話を聞き、調査実施箇所を選定する方法もある。

➤ 宮田委員

排水機場の役割の重要性をその流域住民へ周知させることが重要と考える。

国土交通省や県など各々が排水機場を管理しているが、それぞれの稼働状況を網羅的に図化することが可能か。

住民が排水機場の重要性を理解するため、情報を公表すべきである。

➤ 事務局

排水機場は、それぞれポンプ運転開始水位を設定して稼働させている。

県管理の排水機場は土木事務所で把握しているが、国土交通省の排水機場は別となる。

➤ 会長（清水委員）

群馬県も排水機場の重要性周知のため努力して欲しい。

➤ 卯木委員

カワセミが一度営巣したが、その後居なくなった理由は、エサが取れないことが原因と考える。

営巣地の上下流それぞれ150m程度の範囲に、エサがとりやすい環境をつくる必要がある。

近年カワウが増え、エサとなる魚を取ってしまい、結果としてエサを取りづらくなっているのではないか。

カワウは浅いところでは魚を取ることが出来ないため、深い部分へ石をいれるなどの対策を行うと有効と考える。

➤ 吉澤委員

カワセミのエサは魚だけか。

➤ 卯木委員

サワガニやトカゲなど、小さな生物がエサとなる。

カワウが近年増えた理由は、天然魚よりも動きの鈍い養殖魚の放流が原因の一つと考える。

➤ 吉澤委員

放流は必要不可欠なものである。

7. 事務連絡

8. 現場視察（今回は時間の関係から現場視察後の会議が出来なかったことから、主要な質疑も議事録へ加えています。）

① 桃の木川

➤ 会長（清水委員）

既存の落差工は改修に伴い無くなったのか。

➤ 事務局

元々取水のための固定堰があったが、改修に伴い撤去した。

➤ 会長（清水委員）

濁度や水量は普段からこの程度か。

➤ 事務局

濁度はこの程度、水量は普段よりやや多い。

② 牛池川

➤ 会長（清水委員）

調節池は平常時に利用されているか。

➤ 事務局

利活用協議会で検討した経緯はあるが、現状としては利用していない。

➤ 卯木委員

事業の期間が長い印象がある。

➤ 事務局

河川の改修は下流から行う必要があり、また、橋梁の架け替えなどもあり、さらに出

水期の工事が出来ないため期間がかかってしまう。

➤ 斎藤委員

河川の改修は都市計画へ位置付けされているか。

➤ 事務局

溢れた事案があった場合などは、以前は全体計画、現在は河川整備計画に位置付けて整備している。

➤ 卯木委員

右岸側の自然林を残したことは、生態系にとって非常に良いこと。

➤ 事務局

地域の条件にもよるが、生態系に配慮した川づくりを進めて行きたい。

➤ 卯木委員

小水路へ通年水が流れるようにすれば、様々な水生生物が棲めるようになる。

③ 井野川

➤ 会長（清水委員）

井野川の治水安全度を上げるためには、川沿いの住宅が多いため、地下貯留なども対策案の一つとして考慮してもよい。

➤ 事務局

維持管理を含めた費用も考慮し検討していきたい。

➤ 会長（清水委員）

地元の方々の意識はどうか。

➤ 事務局

周辺で被害のあった方々の意識は高いと聞いている。

➤ 斎藤委員

ゲリラ豪雨の要因は、一部の地表面からの蒸発量が大きいために起こるのか。

➤ 事務局

一概に言えないと思うが、山への吹き上げで雲が発生するということもあるようである。

➤ 卯木委員

昔の井野川はもっと蛇行していて藪に囲まれていた。

改修してまっすぐな河川になったが、それでも溢れたということは、雨の降り方が変わってきたということか。

▶ 事務局

井野川はカスリーン台風による出水以降改修を行ってきた。
流域の都市化も進み、流出が増えたことも考えられる。

▶ 斎籐委員

水があるところに人が集まってくる。
都市計画を作る上で、流出が増えることをどのように考えるかが大切である。

▶ 青井委員

旧群馬町の開発で流出が早くなっていると思う。

▶ 会長（清水委員）

開発などにより最後は河川へしわ寄せが来る。

▶ 林委員

木工沈床は効果的な工夫が必要と考える。
井野川の水制工は、いつ頃設置したものか。

▶ 事務局

年数まで把握していないが、だいぶ以前に設置したものである。

9. 閉会

以 上

署名

清水 義彦